

**平成 15 年度**  
**新庁舎における市民利用施設検討委員会ワークショップ**  
**第 3 回ワークショップ開催**

平成 16 年 3 月 6 日 (土)

福島市民会館 5 0 1 号室にて、平成 15 年度最終のワークショップが始まりました。

前回のワークショップで、アドバイザーの山川先生から提案があった新しいメンバーの参加については、福島大学の女子学生 3 名の方をお迎えしてのスタートとなりました。

また、新庁舎建設準備室のみなさんも、グループワークのお手伝いという形で、今回から参加されることになりました。

山川先生のお話の後、3 人の学生さんに簡単な自己紹介をしていただきました。

現在、福島大学経済学部の 3 年生が 2 名と 1 年生が 1 名で、みなさん元々福島市民、生粋のふくしまっ子とのことです。

まちづくりに興味がある方や、自分のまちの市役所が新しくなるのではひと肌脱ごうと積極的に参加された方など、参加動機はさまざまですが、このワークショップに新しい風を吹き込んでくれるものと、大きな期待が寄せられました。

### 第 3 回ワークショップのテーマは、

「～ 誰が、いつ、どんな形で利用しますか ～」

今回は、新たに班編成のためのくじ引きを引き、5 人ずつの新しい 3 グループに分かれて着席した委員の皆さんは、これまでのメンバー構成との違いに違和感はなく、すんなりと作業に取り掛かっていました。

「活発に発言する学生さん」



#### 【本日の目標】

市民利用施設をどんなところにするか？

「誰が、いつ、どんな形で利用するか」を考えて具体的に形にしてみる。

作業の上での 3 つのポイントは

ポイント 1 : 多くの市民のニーズに合っているか？

ポイント 2 : いつでも、気軽に利用 (参加) できるものですか？

ポイント 3 : 今 (今後) 本当に必要なことですか？市役所に必要なものですか？

さらには、5 W 2 H を頭の片隅において作業をスタート。

Who	誰が
What	何を
When	いつ
Where	どこで
Why	なぜ（どんな目的で）
How	どうやって（どんなふうに）
How Much	お金はいくらかかる

**《作業1》具体的に考えられる「市民利用施設」の利用・活動を**

**ポストイットに記入してグループ分けしました。**

誰が  
いつ（どんなときに）  
どんなことを

ケース1：自らが何かの活動をする  
ケース2：何らかのサービスを受ける  
ケース3：何らかのサービスを提供する  
3つのケースを想定して書きだしました。



各人の発言を聞くメンバーに  
終始和やかな雰囲気が漂う

こちらは、真剣な眼差しを一枚の模造紙に注ぐ



《作業1》終了後、本日最初の発表は、「誰々が、こんなことを、こんなふうにします。」



発表者のトップバッターは、各グループ代表「若い力」のみなさん

各班の発表内容は

【第1グループ】

屋内：市民がコミュニケーションの場として屋内施設を利用できる

屋外：市民がいつでも楽しんで利用できる広場

内容は詳細にわたり、機能、スペース的にグループ分けされた。

屋内・屋外にグループ分けされ、さらに『場』の機能ごとに整理。

【第2グループ】

市民利用施設における具体的な機能別の具体的な利用

議会（何らかの形で議会を傍聴できる）

防災（災害時避難場所として利用できる）

観光情報（観光に関する情報を検索できる、伝えてくれる人がいる）

情報の受発信（図書館にはない行政に関する資料を閲覧できる）

市民と職員の接点の場（開放されたロビーで職員に相談できる）

市民参加（行政に参加できるスペースがある）

子どもの参加できるスペースを確保

駐車場（駐車スペースを開放して、みんなが利用できるようにする）

庁舎全体（必要なものを最優先してつくる）

【第3グループ】

来庁者が市役所に来たついでにくつろげたり、楽しんだりする。

（バスを待つ時間の快適な休憩・休憩所的な利用など）

市民が来庁したときに市や市役所、行政に関する情報を得る。

市民がいつでも（使い方を自由に決め）気軽に施設を利用することができる。

（花の手入れ・広場でフリーマーケット・発表展示などが出来る）

来庁者が安心して各種相談ができる。

（他の空間と別に分けられた相談スペースで気軽に相談できる）

市民も職員も開放感のある部屋で手続きも仕事も満喫できる。

（開放された空間で各種サービスが受けられる・食堂の充実など）

困っている人も困っていない人も物事を解決したいときにじっくり話し合い協力し合

える。（市政に参加できる（議会見学等）・各種要望等への対応など）

<作業2>

グループ化した「市民利用施設の利用・活動」を行う場所を考えながら、  
「新しい福島市役所の庁舎と市民広場のイメージ」を絵にしてみました。

新庁舎の内部と市民広場のつながりの中で、  
その利用がどのように行われるかが分かるように、  
絵図で、楽しく、大胆に、細かいところにはこだわらず。



みんなで協力して発表



「広場は広～くがいいですね」

絵を書き出したら、俄然本領発揮、  
グループのメンバーからの注文を図面に落とすように  
描いていく「新メンバー」準備室のみなさん。



第1班成果品

「各フロアーに共通の機能を持たせましょう」



「駐車場を広く、  
いろんな機能を  
持たせたいね」



第2班成果品

《作業1》でグルーピングした模造紙の成果品を見ながら、一つひとつ、絵に落とし、  
「誰が、どこで、何を」を確認しました。

「人は賑やかなところのほうが集まるんじゃないだろうか」  
ということで、広場には木陰にメモリアルベンチあり、  
手形のついた歩道あり、庁舎内には休憩室もあります。



いつも人が集まる  
多機能な庁舎と広場

景観や環境にも  
配慮されています。



第3班成果品

アドバイザーの先生から、以下のようなコメントがあり、平成16年度さらにステップアップするため、各委員は熱心に耳を傾けていました。

**（宇都宮文星短期大学 山口教授）**

- ・ 本日の作業は、これまでの考えてきたものを具体化するということと、それを絵にするということで、イメージを持ちやすくなったと思う。
- ・ 施設をスリムなものにするということであるが、今考えていることが本当に必要なのかということ踏まえて作っていくという意識が出てきたことが良かった。
- ・ 花壇やベンチ、カラー歩道など市民が参加して作るものとしての意識が出てきたことはとても良かった。（自らお金を出す場合、労力を提供する場合など）
- ・ 今後ハード的な部分だけでなく、ソフトの面（サービスを提供する側になる）で市民参加が進んでいくようなことが考えられれば良いと考える。
- ・ 支所で全ての機能が間に合うという考えが出ていますが、本庁舎でないとサービスが受けられない場合も今後想定されるので、市民に優しいサービスが受けられる市民利用施設を考えていただければと思う。

**（福島大学 山川教授）**

- ・ 本当にこの施設が必要なのかということの議論を踏まえて、基本設計に反映させていくべきでしょう。
- ・ まさに、ここでの議論が基本設計にどのような反映のされ方をするのが重要なポイントになると思う。この会の代表が設計に関するプロポーザルの機会に参加していく必要があるのではないかと思う。
- ・ 具体的には今日の3つの案をあわせれば形になっていくとも感じるが、今の作業は机上のイメージであることから、実際、市役所の場所に行って、今まで考えたことを点検していくことも今後必要かと考える。
- ・ また、同じような建物として保健福祉センターなども現場を見ながら、実際の使い勝手はどうかということも踏まえて、市民利用施設に生かせる部分をチェックしていく必要があるでしょう。
- ・ ソフト面、コスト面での検証と、実際に利用されるのかどうかについて点検が必要であると考えます。
- ・ 駐車場の有効活用の案として、駐車料金を地域通貨的なもので還元できるような仕組み（PFI的視点からも）も考えても面白いのではないのでしょうか。
- ・ 新しいメンバー（福島大学の学生、市の職員）が参加して、いろんな人が刺激あって能力が発揮されたことは、とても良かったと感じる。

一般公募委員8名、団体推薦委員8名、新メンバー（大学生）3名による平成15年度3回のワークショップを終了しました。